伝説の書・待望の刊行！

屋久島維管束植物総覧

A comprehensive overview flora of Yaku-Island as the Northern Ryukyus

2026年
7月刊行
予定

編・著　青山潤三　Aoyama Junzo

協　力　鹿児島大学総合研究博物館　田金秀一郎　Tagane Shuichiro

■本書を推薦します

金谷整一（森林総合研究所）

久山　敦（咲くやこの花館元館長・ナチュラリスト）

鈴木英治（鹿児島大学名誉教授）

邑田　仁（東京大学名誉教授　元・日本植物分類学会会長）

横田昌嗣（琉球大学名誉教授）

古賀顕司（屋久島公認ガイド・植物観察家）

柴　嘉亮（恵命堂代表取締役社長）

杉下智彦（屋久島尾之間診療所所長）

手塚賢至（屋久島照葉樹林ネットワーク代表）

山下浩一郎（南日本放送報道制作局次長）

世界自然遺産・屋久島。

この小さい島に、日本の植物の 1/3 に近い 1800 種類の植物が生育する。まさに生物多様性の宝庫である。50 種類以上の固有種、今も次々と新種が発見される。60 年にわたって日本各地、中国、台湾を踏査した著者が、屋久島の植物を総覧する。

図書出版 南方新社

〒892-0873 鹿児島市下田町292-1　https://www.nanpou.com

tel 099-248-5455　fax 099-248-5457　mail info@nanpou.com

刊行にあたって　―屋久島ぬきに日本の植物は語れない―

屋久島は世界自然遺産に日本で初めて登録されたことでも分かるように、生物多様性の宝庫である。日本の面積の 1/750 の屋久島に、日本の植物の 1/3 に近い約 1800 種類が生育している。

いわゆる固有種(分類群)が多いことも屋久島の特徴である。だが、固有という概念は、他との関連性に於いて成り立つものであり、他とどのような関係性を有したうえでの固有なのか、俯瞰的に探っていかなければならない。

屋久島の植物相の魅力は、それぞれの種の、他者（他地域産の集団や姉妹種）との関係性を探ることにより導き出せる。本書は、内に向かっての細見ではなく、外からの俯瞰である。島のみでなく、周辺諸島、日本本土、琉球、中国大陸などの東アジア、ひいては地球の中での位置づけを探りたい。

なかでも本書は、「北琉球としての屋久島」という視点に重きを置いた。屋久島は、通常「日本列島の南端」としての視点のみで捉えられがちだが、「琉球弧」の北端であることも、確かなのである。

日本列島や琉球弧が形成された何百万年、何千万年の地史的歴史の中で、屋久島と他の島々（あるいは日本本土や大陸）との間に、重層的な、意外性に富んだ、様々な関係性が浮かび上がってくる。そのような視点から改めて屋久島の固有植物たちの由来を探っていくと、むしろ低地帯に、奄美など中琉球と同レベルの、より古い地質時代に成立し、現在まで生き永らえている種が存在していることが分かる。また高地帯に於いても、単に隔離され環境に適応し特化した、とする解釈では説明し切れない場合が多い。

本書は、その探求のベースをなすべく、屋久島から記録のある全ての種について言及し、出来うる範囲で国外産を含む近縁種を併記紹介した。

本体 4 巻とは別に、補遺として目録を作成した。「鹿児島県の維管束植物分布図集・全県版（2022)」に基づき、(帰化種や逸出種を含む）屋久島から記録されている全ての種をリストアップした。目録＋4 巻をセットとして示すことで学術書としても位置づけられたと思う。

本書の上梓は、ゴールではなく、スタートであると考えている。本書は問題提起の書である。本書で為した示唆が、今後の屋久島産植物の様々な角度からの探求の基盤となることを願う。

2026 年 1 月末日、ちらほらとスミレの花が咲きほころび始めた、屋久島宮之浦にて。

青山潤三

■推薦の言葉

久山　敦（咲くやこの花館元館長・ナチュラリスト）

植物の宝庫屋久島にグローバルな視点から再度フォーカスを当て、
更なる興味を与えてくれるパッション溢れる作品。

鈴木英治（鹿児島大学名誉教授）

「問題提起の書」と著者自らが書いているように、種の分布や進化について長年の野外研究から著者の独自の見解を余すところなく披露している。

邑田　仁（東京大学名誉教授　元・日本植物分類学会会長）

伝説の本がついにここまで来たかという感じです。屋久島が宝の山
であるように、この本も宝の山でしょう。

横田昌嗣（琉球大学名誉教授）

本書は、長く屋久島の植物を観察し続けてきた著者の努力の結晶で、屋久島の自然の貴重さの理解に貢献することを期待します。

古賀顕司（屋久島公認ガイド・植物観察家）

「集大成」とは、まさにこの本のことだと思う。過去の屋久島の記
録としても、重要な資料になることでしょう。

柴　嘉亮（恵命堂代表取締役社長）

植物の特徴と魅力を引き出す素敵な写真が満載されていて、読者の皆様に喜んでいただけることと思います。

手塚賢至（屋久島照葉樹林ネットワーク代表）

世界自然遺産の島の植物たちの不思議と神秘に触れたいと望むな
ら、この写真総覧は全てを満たしてくれることでしょう。

山下浩一郎（南日本放送報道制作局次長）

膨大な写真に記録された草花たち、そのひとつひとつに刻まれた「命の連鎖と進化」の物語。屋久島の風景が違って見えてくる。

■本書各巻の主な内容

第Ⅰ巻　キク科植物群（上）

キク科植物群の前半、スイカズラ科からアカネ科までの 381 種･分類群と、島外産関連種。カンツワブキ、イッスンキンカ、ヒメキクタビラコ、ホソバハグマなど、屋久島を代表するキク科植物の重要種について、他地域の姉妹集団との関連を考察しつつ紹介する。

第Ⅱ巻　キク科植物群（下）

キク科植物群の後半、リンドウ科からアジサイ科までの 97 種･分類群と、島外産関連種。屋久島産ヘツカリンドウを他地域産との俯瞰的な視点からの比較を行い、独立分類群アズキヒメリンドウとして記載準備を整える。ヤクシマコンテリギの位置づけを、周辺諸島や中国大陸産近縁集団との関連で考察、アジサイ属全体の再編も行う。山上にピンクのカーペットを為すヤクシマシャクナゲ群落のフォト・ギャラリー。

第Ⅲ巻　バラ科植物群

ムクロジ科からキンポウゲ科に至るバラ科植物群 453 種・分類群と、島外産関連種。屋久島の低地帯を代表する夏緑広葉樹ヤクシマオナガカエデについて、奄美大島のシマウリカエデや台湾産近縁種などとの関連を考察しつつ、その魅力を掘り下げる。低地帯のリュウキュウイチゴと山地帯のヤクシマキイチゴの興味深い関係を、周辺地域や日本本土・中国大陸などの近縁種との関連に基づき考察する。

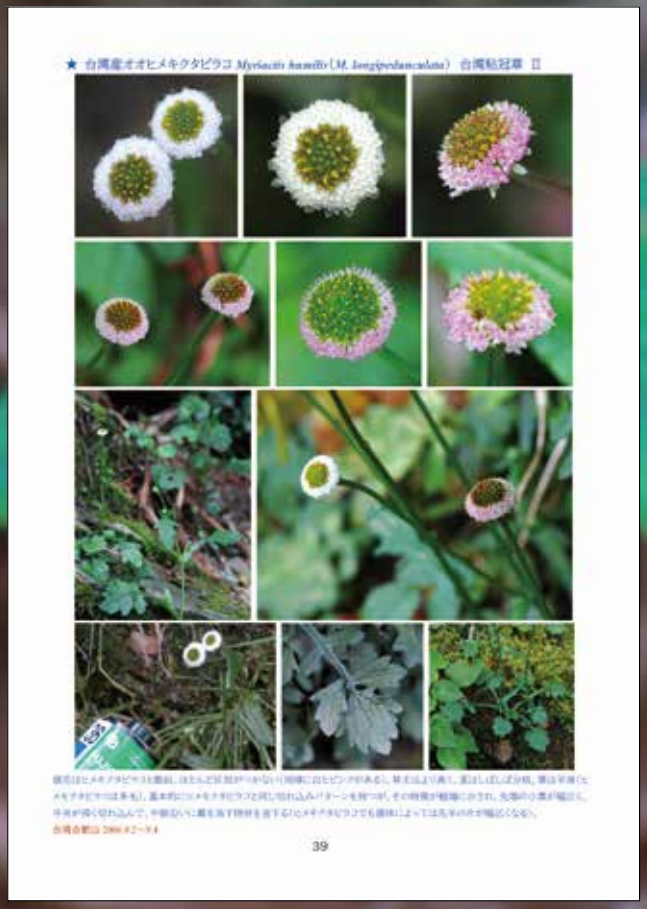
第Ⅳ巻　基幹被子植物＋単子葉植物／針葉樹

イネ科からソテツ科に至る基幹被子植物＋裸子植物 519 種・分類群と、島外産関連種、およびシダ類389種の概要。これまでその実態がほとんど知られていなかった超希産種、マツゲカヤラン、ヒメクリソラン、タイワンショウキラン、ヤツシロラン類、ヤクノヒナホシ、ギンランの未記載分類群などを、鮮明で美しい写真とともに紹介する。

屋久島維管束植物目録　2026 年版

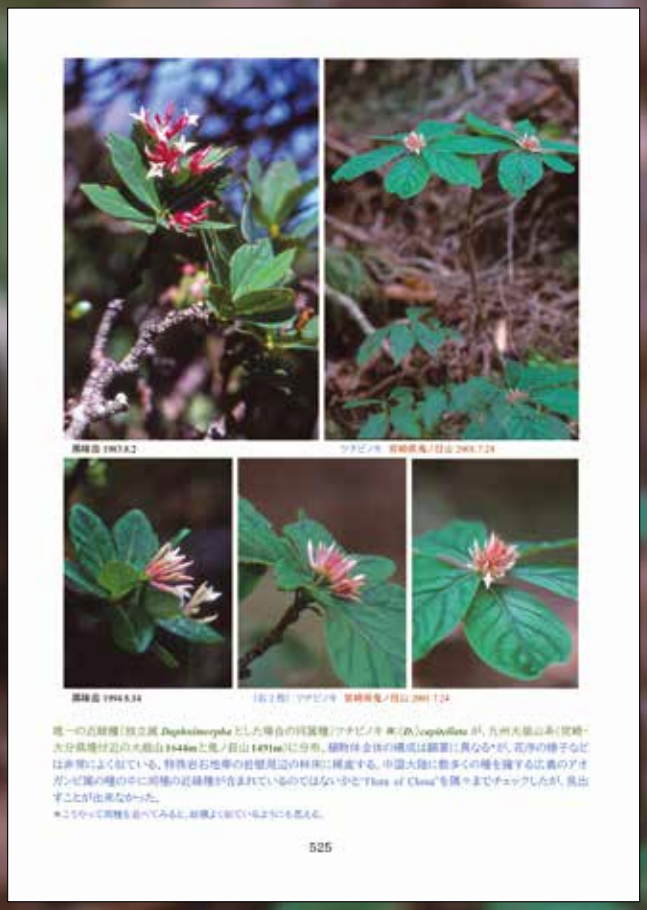
2022 年に纏められた「鹿児島県の維管束植物分布図集－全県版－」（鈴木ほか、2022）収録の鹿児島県産 3917 分類群中、屋久島産 1844 分類群をピックアップ、シノニム（重複名称で掲載された分類群）や明らかな誤記録などを削除整理し、2026 年 3 月時点で新たに確認・発見された種（分類群）を加えた 1805 分類群（予定）をリストアップした。目録と本巻の間で種名などに異同がある場合は、その要旨を記した。

■ページ見本



屋久島の標高 1600m 前後に稀産するヒメキクタビラコの唯一の近縁種、台湾産オオヒメキクタビラコ（P.36-P.41）

大隅半島南端から南西諸島、台湾、中国に分布するヘツカリンドウ種群の花被裂片の比較（P.284-P.307）



固有種シャクナンガンピ。花序の様子が非常に似る唯一の近縁種ツチビノキが、九州大崩山系に分布。中国大陸にも近縁種は見いだせない（P.520-P.525）

屋久島産植物の中で最高に興味深い、謎に満ちたヤクシマキイチゴとリュウキュウイチゴ（P.542-P.563）

■ページ見本

ヤクシマスミレ。屋久島、奄美大島、徳之島、沖縄本島に分布、八重山諸島産のイシガキスミレヤやヤエヤマスミレも近縁。各産地の鹿児島大学総合研究博物館 (KAG) 標本（P.654-P.657）

近年新種や新産地が北琉球各地から報告されているヤツシロラン類（P.776-P.777）

屋久島には分布しないことになっているギンラン。通常のギンランより著しく小型（P.781）

着生欄の超希少種。1936 年の記載以降、発見個体もごくわずか。生態写真もほとんど紹介されていないマツゲカヤラン（P.788-P.789）

■編著者紹介

青山潤三（あおやま・じゅんぞう）

1948 年、神戸市生まれ。「ギフチョウ」『科学のアルバム』（あかね書房、1987）『小笠原～緑の島の進化論』（白水社、1998）『中国のチョウ～海の向こうの兄弟たち』（東海大学出版会、1998）『世界遺産の森・屋久島―大和と琉球と大陸の狭間で』（平凡社新書、2001）『屋久島～樹と水と岩の島を歩く』（岩波ジュニア新書 2008）『中国蝶類図鑑』（南方新社、2025）ほか、著書多数

予約特価　注文受付中！！（2026 年 6 月末日まで）

屋久島維管束植物総覧

第Ⅰ巻　キク科植物群（上）

編著者　青山潤三
協　力　田金秀一郎
仕　様　A5 判、240 頁、オールカラー
定　価　本体 5,800 円＋税
発　行　2026 年 7 月（予定）

第Ⅱ巻　キク科植物群（下）

編著者　青山潤三
協　力　田金秀一郎
仕　様　A5 判、240 頁、オールカラー
定　価　本体 5,800 円＋税
発　行　2026 年 7 月（予定）

第Ⅲ巻　バラ科植物群

編著者　青山潤三
協　力　田金秀一郎
仕　様　A5 判、240 頁、オールカラー
定　価　本体 5,800 円＋税
発　行　2026 年 7 月（予定）

第Ⅳ巻　基幹被子植物＋単子葉植物／針葉樹

編著者　青山潤三
協　力　田金秀一郎
仕　様　A5 判、240 頁、オールカラー
定　価　本体 5,800 円＋税
発　行　2026 年 7 月（予定）

屋久島維管束植物目録　2026 年版

著　者　田金秀一郎、青山潤三、駒田夏生、鈴木英治
仕　様　A5 判、100 頁
定　価　本体 2,800 円＋税
発　行　2026 年 7 月（予定）

郵便はがき

料金受取人払郵便
鹿児島東局
承認
100

差出有効期間
２０２８年１月
１９日まで

有効期限が
切れましたら
切手を貼って
お出し下さい

892-8790
168
鹿児島市下田町二九二―一
図書出版
南方新社
行

ご注文

屋久島維管束植物総覧（全４巻＋目録セット）予約特価　本体 20,800 円＋税	セット

お名前

ご住所　〒

TEL　（　　）

取扱書店
帳合

地方小出版流通センター
取扱品

全巻セット
26,000 円＋税のところ

2026年 6月末日まで

予約特価
20,800 円＋税
＊送料無料

＊ご注文は、左の注文はがきを書店にお持ちいただくか、直接南方新社へお出しください。